



図書館だより 5月

四日市メリノール学院図書館

今年のゴールデンウィークは、新型コロナウイルス感染症^{かんせんしょう}の予防のため外出^{とあで}や遠出もできない状況^{じょうきょう}でしたね。心配せず旅行などができるようになるまで、もうしばらくかかりそうです。そこで、図書館にある写真集やガイドブックを利用して、旅行に行った気分^{ひた}に浸ってみるのはいかがでしょうか。PC やタブレットを使って画像^{がそう}や動画^{どうが}を見ながら、図書の本でその地域に関する「あるある情報」を知るのも楽しいし、勉強になると思います。

図書館には、進路資料を調べる人も来館します。高3生の中には、進路について具体的な大学や学部名も決定してきている人もいるようで、大学案内^{せんぱい}などを見に来る人、先輩^{にゅうしほく}たちの入試報告を見に来る人が増えてきました。進路に関する調べも大切ですが、今のうちから本を読むクセ（長文を読むクセ）を付けておくと、受験の時には「読解力」がつけられると思います。「どんな本を読んだら良いのか」「どんなものから読み始めたら良いか」迷っている人は、一度司書に相談してくださいね。図書の学年・クラス貸出も計画中です。

今月のおススメ

「2021 年本屋大賞」ノミネート作品の1冊です。著者の伊吹有喜^{いぶきゆうき}さんは、三重県出身の方で、四日市市観光大使もされています。

1988年夏の終わりのある日、高校^{まよ}に迷い込んだ「コーシロー」と名付けられた白い犬が、生徒と一緒に学校生活を過ごすことになりました。その犬の目を通し、生徒たちの話が進んでいきます。昭和から平成、そして令和へと続く時代を通して、学生たちの悩みや迷い、決断^かなどが描かれています。時代により移り変わるものはいろいろありますが、時代に関係なく中学・高校の学生時代には、自分の将来や人間関係^{なや}など^{まよ}悩み迷うことが多いように思います。生徒たちの姿^{みずみず}が瑞々しく描かれている青春小説といえます。一度読んでみてください。



「犬がいた季節」

伊吹 有喜/著

双葉社